第６学年３組　体育科学習指導案

第２校時　　場所　体育館　　指導者　西　沙織

１　単元名　私たちの附属小を伝えよう「明るい子」「強い子」「考える子」（表現運動）

表現運動には、正解と呼ばれる動きはない。子どもが題材からイメージすることはそれぞれであるし、それを表す動きもそれぞれ違うからである。しかし、どんな動きでもよしとすると、自由に表現するだけにとどまり、子ども同士のかかわりが生まれづらい。そこに伝えたい思いがあるからこそ、自由に表現する中で友達の動きに立ち止まったり、相応しい動きを選んでいったりすることができる。友達とかかわる中で一人一人の違いに気付き、それぞれを認め合うことで、心身を解放できるのではないだろうか。

本学級は周りを意識しすぎて自分の意見を言えなかったり、人に合わせてしまったりする傾向がある子がいる。また、受験を意識するあまり、友達をライバルとして見たり、正解だけを求めたりする子も今後出てくるだろう。そんな子どもたちに、身体で表現することを通して伝えたいことを伝えたり、相手を認めたりしながら、運動するたのしさを味わってほしいと願う。

本実践では校訓を題材とし、伝えたいテーマを設定しひとまとまりの動きを創っていく。それぞれが生み出した多様な動きの中から伝えたいテーマに合う動きを選んだり、組み合わせて新たな動きを作ったりする中で互いの違いを認めつつ、同じイメージに向かって動きを追求していく姿を目指す。

２　単元について

⑴　本単元は、表したい感じやイメージをひとまとまりの動きで表す中で、動きに変化を付けたり繰り返したりして、メリハリのある動きで表現したり、群（集団）の動きを工夫して表現したりする力を身に付けることや「はじめ–なか–おわり」の構成を工夫しながら表現しようとする力を身に付けることをねらいとしている。

この単元では校訓を題材に、そこから伝えたいテーマをチームごとに設定し、ひとまとまりの動きとして作品づくりを行っていく。テーマは子どもたちがよりよい動きを検討する際の１つの指標となり、それがあることでかかわり合いが生まれる。また、作品は子どもたちの６年間の経験を基に作られていくため、「はじめ－なか－おわり」のひとまとまりの構成になりやすく、さらにその中で変化のある動きや構成の工夫が生まれやすい。子どもたちの経験やイメージも様々であることから、多様な動きが出てくると考える。それらの動きの中から、テーマに合う動きを選んだり、動きを組み合わせて新たな動きを考えたりしていく。また、子どもたちは自分とは違う動きをする友達に動きの意図を聞きたくなるだろう。このように、仲間とかかわり合い、動きの意図を伝え合うことで、他者や自分自身を理解し、互いの良さを生かし合いながら表現する楽しさを味わってほしい。

⑵　子どもたちは中学年において、自然を題材として即興的に表現する学習を行っている。この中で、鳥や虫などの題材から特徴を捉えて誇張して表現することや、二人組で対になる動きについて学習をしてきている。本単元ではこのような動きに加え、変化をつける動きやメリハリ（緩急・強弱）のある動き、群の動きについても学習していく。この学習は中学校において変化と起伏のある動きの学習へとつながっていく。

⑶　本単元に関する子どもたちの実態は次の通りである。(調査人数３６人)

①　表現運動に対して、約半数は好きではない気持ちを抱いているが、ほとんどの子はミラーリングやゾウの動きなどに楽しんで取り組むことができた。

３　単元の目標

⑴　題材の主な特徴を捉え、表したい感じをひと流れの動きで即興的に踊ったり、簡単なひとまとまりの動きにして踊ったりすることができる。

⑵　テーマが伝わるように動きを工夫する中で、動きの意図を友達に伝えたり、相手の動きの意図を理解したりすることができる。

⑶　互いの良さを認め合いながら、場の安全に気を付けながらたのしく踊ろうとしている。

４　指導計画（６時間取り扱い）

時	学習活動	主体的・対話的で深い学びを生み出すための教師の指導	評価規準・評価方法等
1	1　表現運動と出合い、見通しをもつ。	○　バレエ経験者の動きを鑑賞したり、一緒に動きをたのしんだりする中で、表現運動の特性に触れさせるとともに、体全体で表現することへの抵抗感をなくしていく。 ○　校訓ごとに感じることを即興的に表現することで、それぞれのイメージや動きの違いに気付かせる。 ○　インフォーマルな集団で動いていくことで、リラックスした空気の中で多様な動きを引き出すとともに、それぞれの動きがチームでの作品作りのアイデアとなるようにする。	【主】題材の特徴を捉えた動きを即興的に表現しようとしている。（観察）
2・3・4	2　自分たちのテーマに合う構成や動きを考えながら作品作りを行う。	○　題材から何を伝えたいかというテーマを設定させ、意図のある動きができるようにする。 ○　６年間の経験を基にして考えさせることで、ストーリーとして考えさせる。 ○　黒板に構成や動きなどを書き込めるようにしておくことで、可視化すると同時に教師が見取り、適切にかかわることができるようにする。 ○　動作の真似になっている子どもに対しては、その時の感情や一番伝えたいことは何か問うことで、イメージと動きをつなげて考えることができるようにする。	【思】イメージと動きをつなげながら、表現しようとしている。（観察・体育日記） 【技】題材について感じたことを即興的に表現することができる。（観察）
5・6・7	3　作品を見る人に思いが伝わるように、表現の仕方や構成を工夫する。	○　伝えたい動きや場面が全体の中で際立っているかを問うことで、その他の動きや場面との差に着目させる。（本時５／７時） ○　動きの差について思考錯誤しているチームには時間・空間・動きの視点を基にして対照な動きについて考えていけるようにする。 ○　構成の差について試行錯誤しているチームには、子どもたちの経験を聞きながら、ストーリーの中の感情の変化に着目させ、動きにつなげていけることができるようにする。	【思】題材に合う動きについて、視点を基に検討している。（観察・体育日記） 【技】題材について感じたことをひとまとまりの動きで表現することができる。（観察） 【主】他のチームの作品を見て、イメージをつかもうとしている。（観察）

５　本時の学習

⑴　目標

構成と動きを関連付け、変化に着目して自分たちの動きを振り返る活動を通して、動きのメリハリや群の動きを工夫しながら、自分たちの表現をつくりかえることができる。

⑵　展開

時間	学習活動	学習する子どもの思い・姿
５	１　心と体をほぐす。	○　動いていると恥ずかしさが減ってくる気がする。 ○　高く伸びるって、思ってたよりうんときついな。
１０	２　本時の課題を把握し、試してみたい動きについて見通しをもつ。 グラフ（例）	○「考える子」が全然伝わらなかったな。ばらばらに動いて自分勝手な感じから、手を繋いでだんだんまとまる感じだったんだけど。どうすればいいか分からない。 ○　私たちは、はじめの仲良しよりもおわりの仲良しを強調するように、上下の動きを追加しているよ。 ○ だんだんのところは、人が少しずつ増えていっているから伝わった。でもつながり始めがよくわからなかったから、いつの間にか増えてたって感じ。 ○　はじめとなかが同じに見えたよ。きっかけがないから分かりにくい。私たちは振り返る動きを入れてるよ。
１５	３　それぞれの場で動きを見直す。	○　自分たちはなかのところがわかりにくいって言われたな。前の場面と差がないのかも。 ○　動画見てみる？…思ったより差がないね。 ○　確かに。心が折れた場面、ずっとうずくまっているし、その後の協力のところも、手だけでちょっとしか動けていないもんね。 ○　もっと伝わるように、大袈裟に動いてみようよ。ここが伝えたいところだから。 ○　私は、はじめの場面のばらばらなところが今日やりたい。はじめがすごくごちゃごちゃしていたら、おわりが際立って見えるでしょ。動きはばらばらだけど、同じ向きで走ってる。 ○　そしたら、散らばっていって、戻ってくる？一人ずつ戻ってくると、だんだんってところが伝わるよね。 ○　最後はやっぱり、「団結」がテーマだから、動きをぴったり合わせた方がよくないかな。 ○ 向こうのチームもおわりが一番グラフが高いから、見に行ってみよう。
１０	４　見直した動きについて全体で共有し、見合う。	○　なかの部分の、だんだんといい方向に行く様子を表すところを工夫しました。ずっと動いていたからあえて立ち止まって、注目してもらえるようにしました。
５	５　本時を振り返る。	○　散らばっていくようにしたら、今度は戻ってくるきっかけがわからなくなったから、誰かきっかけになる人を作らないといけないと思いました。

子どもたちは前時までに、伝えたいテーマに合う構成やそれを伝えるための動きについて考えながら作品をつくってきました。しかし、構成の起伏に対して動きの起伏が少ないため、伝えたいことがうまく伝わらないチームもあります。本時では構成と動きを関連付けることで、動きについて見直し、誇張したり変化をつけたりしていく姿を目指します。

主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示・教具・評価）

○　リズムに合わせて高低等の動きの変化を表現したり、対になる動きを表現したりすることで、動きの要素を体感させる。また安心して表現に取り組むことができる雰囲気をつくる。

○　伝えたいことが伝わらないという子どもの思いを取り上げ、その構成について語らせ、その変化を折れ線グラフで表す。前時の動画を視聴し、折れ線グラフほどの起伏が動きに反映されていたか全体に問うことで、構成と動きを関連付けた考えを引き出していく。

○　場面を比較して考えている発言に対しては、その差に着目させ、それに合う動きの差が出るにはどうするとよいか問うことで、高低やスピードなどの動きの要素を引き出す。

○　場面の移り変わりに関しての発言に対しては、「きっかけ」や「だんだん」という言葉に立ち止まり、個の動きや群の動きの工夫に着目させる。

○　作りかえる視点が出たところで、自分のグループには構成の起伏に合うように動きが変化しているか全体に問い、本時の課題を設定する。

構成の変化に合うように動きの変化を考えよう

【教具】
○　タブレット端末
○　移動黒板

○　前時に撮ったそれぞれのチームの動画をタブレットで配っておくことで、視聴し、自分たちの動きを振り返ったり今の動きと比較したりできるようにする。

○　グラフの最高点や最低点の動きについて考えているチームには、その時の気持ちを問い、気持ちをきっかけに動くことができるようにする。

○　「ばらばらな動き」を追求しているチームには、イメージしているばらばらの状態を問うとともに、ばらばらな動きを頭の高さや動く速さ、立ち位置など細かい視点に分けることで、どの程度ばらばらにするかを検討させる。

【評価】
動きのメリハリや群の動きに気をつけながら、自分たちの表現をつくりかえている。（観察）

○　複数の動きが出ている場合にはその動きの意図を問い試した上で自分たちの伝えたいものに合う動きを選ぶよう促す。

○　グラフの起伏が同じチームや「ばらばら」の動きを追求しているチームが複数ある場合は、他のチームの様子を伝えるとともに、必要であれば見たり見てもらったりできることを伝えることで、他チームとのかかわりも促していく。

○　動きが停滞しているチームには、どんなことをしたいのかを尋ね、一緒に動きながら考えていくことで、子どもたち同士のかかわりを促していく。

○　相互鑑賞の前にはチームで試した動きについて全体で振り返る時間を設定する。そうすることで自分たちの学びを自覚するとともに、つくり変えた動きを中心に視点をもって相互鑑賞ができるようにする。

○　この時間に新たにわかったことや動きの要素等の工夫について振り返らせていく。また、相互鑑賞の際にもらったアドバイスをもとに、次時に改善したい動きについて個人で考えたり班で共有したりすることで、次時への見通しをもたせる。